

あるストリッパーに捧げる詩

原曲 Dm

Capo 5

②

FM7 / Em / Am / Am / FM7 / Em / Am / Am

①

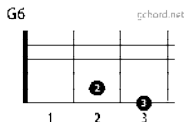
Am G6
俺と 付き合ってくれと言った とき
FM7
お前はうつむいて
Am G6 FM7
しぼりだす ような声で ぽつんと つぶやいた
G C
こんな仕事をしてる 女で構わないの？
G
構わないさ 俺だって
Am G6 Am
ろくな仕事をしてるわけじゃない

FM7 / Em / Am / Am

Am G6
ある日 おれはちょっとした繁華街に
FM7
あるビルの2階の
Am G6 FM7
小さなみせで 偽りの優しさと酒を売っていた
G C
はじめてそこへ お前が 来たとき
G Am G6 Am
その時はまだ 単なる客の一人にしか過ぎなかった

Am G6 FM7
いかげん その 仕事に嫌気がさした頃だった
Am G6 FM7
心にも ない言葉が 口から自然に生まれてくる
G C
いらっしやいませ と ありがとう ございました
G Am G6 Am
いったい何万回 言ったのか 数えきれない

Dm7 G Em Am
いつのまにか お前と話すうちに
Dm7 G C
心はそっと やすらぎへと変わってく
Dm7 G Em Am
いつのまにか お前を待ち 続ける
Dm7 G Am
心に 気付いた夜



Am G6 FM7
一度 私の踊っている ステージを観に来てよ
Am G6 FM7
少し 戸惑ったけど 劇場へ 足を向かわせた
G C
スポットライト 浴びながら 蝶のように
G Am G6
とても綺麗だ だけど ここで のお前は
Am
おれのお前じゃない

Dm7 G Em Am
いつのまにか お前に本気 だった
Dm7 G C
心はもっと 近づきたがっていた
Dm7 G Em Am
いつのまにか お前のその 仕事を
Dm7 G Am
やめ させたく なったた

FM7 / Em / Am / Am

Am G6 FM7
はっきり しない俺の気持ちは 俺にもわからなくて
Am G6 FM7
やがて 時間が過ぎて 俺達は 自然に会わなくなり
G C
思い出らしい 思い出も作らずに
G Am G6 Am
働いていた あの店の 看板も 名前を変えた

Dm7 G Em Am
いつのまにか お前に本気 だった
Dm7 G C
心はもっと 近づきたがっていた
Dm7 G Em Am
いつのまにか お前のその 仕事を
Dm7 G Am
やめ させたく なったた

Dm7 G Em Am
たとえどんな 出会ったとしても
Dm7 G C
お互いもっと 素直になれたはず
Dm7 G Em Am
たとえどんな 仕事だったと しても
Dm7 G Am Am
愛し 続けること

Dm7 G FM7
出来た ハズなのに

G Am
誇りにしな 誰にでも出来る仕事を
G Am
してるわけじゃない

× 3

■ 3回目は、『出来る仕事』からゆっくり